「地域で暮らす」とはどういうことか？

2015年5月22日
14：30〜
@地域計画学研究室／学生室 (2号館 W201)

場所というものは、どのように表れてくるものでしょう。きっと、「変」ということと関わりが深いのではないでしょうか。例えば動物の進化に同じような側面があると思います。
進化の過程は、環境の変化に対応して、合目的々に果たしていったのではなくて、無意味に、「変」な存在であったのが先だったのではないでしょうか。その「変」な特徴が、変化していく環境に適合していれば、生き残っていく。ゾウの鼻は、何かのために伸ばしていったのではなくて、なんか知らないけど伸びていってしまった。そしたら思いのほか使い勝手がよかった。キリンの首も、勝手に伸びていっちゃって、たまたまうまい棲み分けになっていた。そういう流れではないかと思うのです。

田口研究室ゲストゼミ

うえはらゆうきさん

愛媛県西予市明浜／なんち屋

さて場所のほうと言えば、同じように「変」な空間が、時代や気分の変わり目に、何かしらの形で発見されて表れるのではないでしょうか。もちろん、時代に合っていなければ、衰退して滅びてしまうこともあろうと思います。こういうことを、実践的に確かめていきたいというのが、ここで暮らす大きな理由です。
芝居に携わった経験、思いっきり議論した大学院のときのこと、ネパールやインドの思い出、主婦の経験、奇跡とも思えるような人々との出会い、かんまん部屋の暮らし、そういうものを全部ひっくるめて、この田舎がその場所として、次の時代の大切な舞台となるよう、段畑で栽培をおこなう人間として、僕たちの農業はまちつくりなのだという志しは忘れずに、元気よく過ごしていきたいと思っています。（なんち屋HPより）